

第63回 農村医学夏季大学講座

地域をともにつくる

～社会的共通資本としての医療～

2024 **7/26** (金) — **27** (土)

JA長野厚生連佐久総合病院
農村保健教育ホール

※ZOOM同時配信



浅間山を背に走る小海線

開催要領

①佐久総合病院教育ホールで受講希望の方

所定の申込用紙(コピーでも可)にご記入いただき、送付願います。
FAXでお申し込みされた方は、必ず電話にてご確認ください。また、メールでお申し込みされる方は、佐久総合病院のホームページ(<https://sakuhp.or.jp>)をご覧ください。

- 受講料・・・一般 3,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は1,500円
高校生以下 1,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は500円
- 交流会・・・26日(金) 2,000円(税込) ※参加は事前のお申し込みが必要です。
- お弁当代・・・昼食(27日のみ希望者) 1,200円(税込)
- 定員・・・300名
- 支払方法・・・当日精算のみとさせていただきます。来場いただいた際に受付で精算をお願いいたします。

②ZOOMを使用して受講希望の方

以下のQRコード、または佐久総合病院のホームページ(<https://sakuhp.or.jp>)にアクセスいただき、お申し込みフォームから登録・決済をお願いいたします。

お申し込みには、**everevo**(イベレボ)への会員登録(無料)が必要です。



- 受講料・・・一般 3,000円(テキスト代・税込) ※1日のみの受講は1,500円

- ※別途事務手数料が発生いたします。
- ※1人単位でのお申し込みと受講をお願いいたします。
- ※ZOOM IDを第3者へ譲渡・販売・公開する行為は禁止いたします。
- ※ZOOMで参加される場合、高校生以下の料金設定はありません。

- 支払方法・・・お申し込みフォームの支払い方法に従い、お支払いをお願いいたします。

決済完了後、ZOOM IDとパスワードが、ご登録いただいたメールアドレスに配信されます。
お支払い方法は、クレジットカード決済・コンビニ決済・銀行振込が選択できます。
※受講料の払い戻しは原則いたしませんので、ご了承ください。

- 申込締切日・・・7月18日(木)

開催場所 ご案内



- 北陸新幹線「佐久平駅」から車で20分
- JR小海線「白田駅」から徒歩で10分
- 上信越自動車道・佐久ICから車で25分
- 中部横断自動車道・佐久白田ICから車で5分

お申し込み方法・お問い合わせ・連絡先

- ◆所定の申込書または佐久総合病院のホームページからお申し込みください(コピーでも可)。
- ◆受講票、領収書は事前に発行いたしません。受講当日、会場受付にてお渡しいたします。
- ◆お申し込み・お問い合わせ先: 佐久総合病院 第63回農村医学夏季大学講座事務局

事務局 第63回農村医学夏季大学講座事務局
長野県佐久市白田197 佐久総合病院内
(直通) TEL 0267-82-2677
FAX 0267-82-7034
<https://sakuhp.or.jp/>

■主催: JA長野厚生連/JA長野県組合長会/JA長野中央会/JA長野信連/JA全農長野/JA共済連長野/JA長野健保
■後援: JA全厚連/日本農村医学会/日本成人病予防会/日本農村医学研究会/長野県/信濃毎日新聞社/SBC信越放送/NBS長野放送
TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/NHK長野放送局/佐久医師会/佐久市/小海町/佐久穂町/川上村/南牧村/南相木村/北相木村



長野県厚生農業協同組合連合会
代表理事 理事長

洞 和彦

今年「農村医学夏季大学講座」は第63回目を迎えました。これまでの長い歴史の中では、時代に即したテーマをその都度取り上げ、私たちの地域が抱えるさまざまな課題について真正面から向き合ってきました。今年メインテーマは「地域をともにつくる」とし、サブテーマには「社会的共通資本としての医療」といたしました。

サブテーマに含まれる「社会的共通資本」という理論は、故宇沢弘文元東京大学経済学部教授により「医療や教育は市場原理主義から切り離して考える必要がある」と提唱されました。現代社会において尊厳をもって生きていくための最低限の仕組みの一つに医療の制度、社会の仕組みがありますが、このような医療制度資本を現在だけでなく、次世代社会の共通財産として守り、持続的に維持していくことが大切です。

こうした中、今回はさまざまな立場の講師をお招きし講演いただくとともに、引き続きシンポジウムでは「農村、そして農村医療に未来はあるか」をテーマに、社会的共通資本を踏まえながら、今後の持続可能な地域医療について議論を深めたいと考えております。

信州の盛夏にふさわしい熱い議論ができますことを期待するとともに、開催にあたり、第一線でご活躍の講師のみならず、皆さま並びにご支援を賜りました各関係団体等のみなさまに厚く御礼を申し上げます。



佐久総合病院
統括院長

渡辺 仁

皆さん、今年も夏季大学の季節となりました。今回は、新型コロナウイルス感染症の5類移行から1年が経過したことにより、ハイブリッド形式の利点を活かしながら、より対面での議論を重視する従来の形に近い開催方式としました。

メインテーマは『地域をともにつくる』、サブテーマが『社会的共通資本としての医療』です。2年続けたメインテーマである『地域医療をともにつくる』を、医療が中心にはなりますが、より広く「地域づくり」まで考えていきたいと思っております。特に2日目のシンポジウムでは、『農村、そして農村医療に未来はあるか』という難題をテーマとしました。混沌として未来を描きにくい時代ですが、議論の中からまず一歩、未来に向かって踏み出すことができたらと思っております。また、初日の若月賞受賞講演は、受賞者お2人の信念と理想に従った真摯な生き方から、きっと心に残る貴重な講演になると思います。

5月下旬にこの原稿を書いています。今年の夏は昨年以上の暑さと聞いております。この佐久の地で、熱い議論と高原の涼風をぜひ味わっていただきたいと思います。

第63回 農村医学夏季大学講座プログラム

1日目 7月26日(金) 11:30～

時刻	テーマ	講師・座長
11:30	受付	
12:30	開講式	
12:45～13:30	若月賞授賞式	
13:30～14:40	<p>[若月賞受賞講演] 家庭医・海外医療協力</p> <p>私には夢がありました。もう50数年前にもなりますが、医学生時代の頃見た夢です。自分が死ぬ時には今よりも少しでも良い社会を次の世代に残したい。自分の与えられた医療の分野で、感じている問題の改善に努力したい。私が医学生の時、何とかしなければと考えた課題は、家庭医療、海外医療協力、救急医療の3つです。今までこれらの課題にどう向き合ってきたか、振り返りつつお話ししたいと思います。</p>	<p>NPO法人 どさんこ海外保健協会 代表 なると けんじろう 氏 榎戸 健次郎 氏 座長 蓮見 純平</p>
14:40～15:00	休憩	
15:00～16:10	<p>[若月賞受賞講演] 病み棄ての戻り道</p> <p>私の産土の沖縄戦。山中を逃げまどう家族。母の背の幼子は、戦中・戦後の混迷期にハンセン病に感染、発症し、14歳から15年間、「らい予防法」によって強制隔離され、人間としての尊厳が打ち砕かれる実体験をしました。「人権」は民主主義の原点ですが、無関心な国民の下では、国家は法律を盾に、「人権」も無価値となり、その実例が、わが国で100年近く生きのびた「らい予防法」です。この法律は消し難い「烙印」を刻み、根強い「偏見」と「差別」を産み出し、今なお、ハンセン病関係者を社会は、排除し続けています。私は、生き方の命題に、「平和」と「人権」という2つの課題を据えてきました。</p>	<p>NPO法人 クリオン虹の基金 理事長 いは としお 氏 伊波 敏男 氏 座長 小林 吟子</p>
16:10～16:30	休憩	
16:30～17:40	<p>[講演] 医療が地域再生の中心になる経済学的理由 ～世界最高健康都市構想実現のために～</p> <p>日本の産業構造の変化に伴い、とりわけ東京以外の地域において医療・介護・教育を基幹産業にすべき経済学的エビデンスを紹介します。これらの分野への予算が不十分である現状を改善する案を提示します。改善案の1つは、地域に眠る人的資源を活性化するために、触媒として芸術(特に演劇)を用い、成果として健康状態と医療費を評価します。改善案を期待通りに実現できれば、佐久市が世界に向けて発信できる成果になります。</p>	<p>早稲田大学・ 神奈川県立保健福祉大学 教授 ゆう へい YOO BYUNG きょう KWANG 氏 座長 鄭 真徳</p>
18:00～19:30	交流会	事前にお申し込みが必要です。

メインテーマ

地域をともにつくる ～社会的共通資本としての医療～

2日目 7月27日(土) 8:30～

時刻	テーマ	講師・座長
8:30	受付	
9:00～10:10	<p>[講演] 社会的共通資本から考える未来 ～ゆたかさに向けて 宇沢弘文がつたえたかったこと～</p> <p>社会的共通資本という経済理論が近年注目されている。数理経済学を基盤にしなが、人々の豊かさに注目した宇沢弘文が展開したものだ。資本主義の行き詰まりを乗り越えるためにこの理論が大きな力を与えてくれる。自然こそが人間が生きていくためには欠かせない。その原点に立ち返り、新しい資本主義を社会的共通資本とともに長野の地から考えていきたい。</p>	<p>宇沢国際学館 代表取締役 日本メメント・モリ協会 代表理事 うらべ 占部 まり 氏 座長 宮田 佳典</p>
10:10～10:30	休憩	
10:30～11:40	<p>[講演] 地域再生の道—内発的発展と自治</p> <p>日本は軍拡・温暖化問題・災害対策・人口減少など新自由主義の破綻とともに戦後最大の転換点に立っている。このことは都市の環境破壊と農村の農業衰退・村落共同体存続の困難というコモン(地域共同社会)の危機に表れている。この共同社会の再生、特に地方都市・農村の存続は焦眉の急である。これまでの政府の過疎対策・地方創生などの国土政策は失敗に終わった。それは工場誘致や補助金による公共事業などの「外来型開発」であった。それに変えて内発的発展と自治の道を検討する。</p>	<p>大阪市立大学・滋賀大学 名誉教授 みやもと けんいち 宮本 憲一 氏 座長 伊澤 敏</p>
11:40～13:00	昼食 ランチョン発表 寸劇	発表 佐久総合病院職員
13:00～15:00	<p>[シンポジウム] 農村、そして農村医療に未来はあるか</p>	<p>大阪市立大学・滋賀大学 名誉教授 みやもと けんいち 宮本 憲一 氏 宇沢国際学館 代表取締役 日本メメント・モリ協会 代表理事 うらべ 占部 まり 氏 南相木村長 なかじま のりやす 中島 則保 氏 佐久総合病院 統括院長 わたなべ ひとし 渡辺 仁 司会 由井 和也</p>
15:00～15:30	閉講式	